

事業名

地域リーダー養成講座「いま、あなたは何をする？ 防災から考える“新しいコミュニティづくり”」

実施センター

三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」

施設名 三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」

三重県津市一身田上津部田 1234

Tel. 059-233-1130 Fax. 059-233-1135

E-mail. frente@center-mie.or.jp

URL <http://www3.center-mie.or.jp/center/frente/>

センターについて

三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」は、三重県の男女共同参画を推進する拠点施設として平成6年にオープン（当時「女性センター」、平成13年改称）した。

弊センターは複合文化施設「三重県総合文化センター」内にあり、同じ敷地内の「三重県文化会館」「三重県生涯学習センター」と共に、「公益財団法人 三重県文化振興事業団」が管理・運営している。平成16年度から公募の指定管理者制度が導入され、現在3期目、平成26年度まで5年間の管理者として指定されている。

弊センターでは、指定管理計画・目標に基づき、「情報発信」「研修学習」「相談」「調査研究」「参画交流」の5本柱で事業を展開。県内のあらゆる分野で男女共同参画を推進するため、様々な主体と連携・協働し、地域の課題に応じ実践的活動を行っている。

事業内容の紹介

先の大震災以降、災害発生時だけでなく平時からの男女共同参画視点でのまちづくりが求められている。そこで、平成25年度は防災を切り口に男女共同参画の視点でこれからのコミュニティづくりを考えることを目的とした人材育成講座を実施した。

講座では、「防災と男女共同参画」の基礎知識となる講義や、ワールドカフェ方式での情報・意見交換、実践事例紹介、男女共同参画の視点でコミュニティづくりを考えるワークショップ等実施。ワークショップでは、まず男女共同参画の視点で地域の現状・課題を洗い出し、課題解決に向けて地域での具体的取組を考えた。

参加者は、自治会や自主防災組織、子育て関係活動者、行政の防災担当者等、さまざまな立場の方が参加され、また、「防災」を切り口としたことから、初めてセンター事業に参加される方や男性の参加を多く得ることができた。

実施までの経緯

弊センターでは、男女共同参画の視点を持って地域で活躍できる人材育成講座を実施してきた。これまで「メディアリテラシー」や「まちづくり」等、さまざまなテーマで講座を実施し、講座修了生の中には、受講生でグループを立ち上げて地域で活動したり、県や地域の委員としても活躍している。

平成24年度のテーマは、先の大震災以降、災害時だけでなく平時からの男女共同参画視点でのまち

づくりが求められていることから「防災と男女共同参画」をテーマに企画することとなった。また、三重県においても高齢化・単身世帯の増加、家族形態の多様化など、地域のあり方が変化している。多様化する現状や課題も踏まえ、「防災」を切り口に、男女共同参画についての必要な知識、意識を学びながら、ジェンダーの視点を持って地域で活躍できる人材育成講座を実施した。

学習プログラムの概要

1. 目的

「防災」を切り口に、新しいコミュニティづくりに向けて、男女が対等な立場で参画することの必要性や地域づくりに必要な男女共同参画の視点を学ぶ。また、その視点での地域の現状分析や課題解決能力の向上を目指し、連携・協働による地域づくりができる人材育成を行う。

2. 日時

- 第1回目 平成24年7月22日（日）13：30～16：30
- 第2回目 平成24年7月29日（日）13：30～16：30
- 第3回目 平成24年8月19日（日）13：30～16：30
- 第4回目 平成24年9月 8日（土）13：30～16：30

3. 会場

三重県男女共同参画センター「フレンテみえ」 2階セミナー室A他

4. 対象

自治会等地域の活動者、NPO・団体、学生、その他関心のある方

5. 内容

- 1日目：講義「災害時に問われる地域力～老若男女で担うコミュニティ防災～」とワールドカフェ方式の情報交換会
- 2日目：講義「三重県と三重大学の連携による防災人材育成プロジェクト」紹介
ワークショップ「男女共同参画の視点で考える“新しいコミュニティ”」
- 3日目：実践事例紹介、ワークショップ「“まち”の現状・課題をみつめる」
- 4日目：講義・ワークショップ「防災から考える“新しいコミュニティ”づくり」



講義の様子



ワールドカフェ形式での情報交換会



グループワークでの検討内容を発表

学習プログラムの具体的構成

【1日目】

時間	内容	ねらい
13:30	主催者あいさつ	
13:35 ～ 15:00	公開講演会 「災害時に問われる地域力～老若男女で担う コミュニティ防災～」 講師：相川 康子さん（NPO政策研究所 専務理事）	「防災と男女共同参画」の総論を学ぶ。平時から男女共同参画の視点の地域づくりが必要なこと、日頃から多様な人たちが関わる開かれたコミュニティづくりの重要性を学ぶ。
15:00 ～ 16:20	ワールドカフェ方式の交流会 テーマ：「これから望まれるコミュニティ像」	参加者同士のネットワークづくり、 情報交換
16:20 ～ 16:30	講師からのまとめ 今後の講座紹介	

【2日目】

時間	内容	ねらい
13:30 ～ 15:00	<p>講義・事例紹介 「三重県と三重大学の連携による防災人材プロジェクト」 紹介 講 師：浅野 聡さん（三重大学准教授、美し国おこし・三重さきもり塾副塾長） 事例紹介者：伊東 三津子さん（さきもり倶楽部 副会長 四日市市消防団富田分団・団員） 亀山 裕美子さん（三重大学「美し国おこし・三重さきもり」産学連携コーディネータ）</p>	<p>三重県における防災対策（主にソフト面）について、また、防災に関する県内のリーダー育成を行う「さきもり塾」の取組を知る。また、「さきもり塾」修了生の実践事例から、防災分野や地域活動への女性の参画の重要性を知る。</p>
15:00 ～ 16:30	<p>講義・ワークショップ 「男女共同参画の視点で考える“新しいコミュニティ”」 講 師：仁科 あゆ美さん（ドーンセンター 統括ディレクター）</p>	<p>被災地での事例や地域コミュニティの事例から、男女共同参画は一人ひとりの生き方を考える上で大変重要であるということに気付き、これからのコミュニティづくりを考えるために必要な視点を学ぶ。</p>

【3日目】

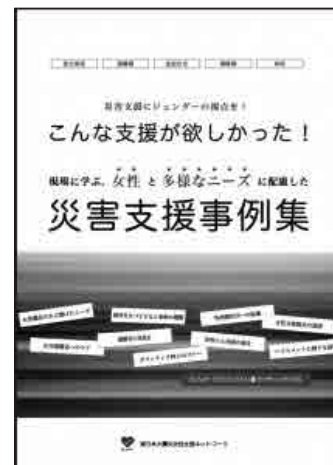
時間	内容	ねらい
13:30 ～ 14:00	<p>実践事例 事例紹介者：新谷 琴江さん （伊勢市消防団副団長・美し国おこし三重さきもり倶楽部会員）</p>	<p>男女共同参画の視点を活かした実践がどのようなものか、理解を深める。</p>
14:00 ～ 16:30	<p>グループワーク「“まち”の現状・課題をみつめる」 講 師：仁科 あゆ美さん（ドーンセンター 統括ディレクター）</p>	<p>「防災」を切り口に、男女共同参画の視点で、地域の現状・課題を分析する。</p>

【4日目】

時間	内容	ねらい
13:30 ～ 16:30	<p>講義&グループワーク 「防災から考える“新しいコミュニティ”づくり」 講 師：仁科 あゆ美さん（ドーンセンター 統括ディレクター）</p>	<p>前回のグループワークで出された地域の現状・課題に対して、その解決策を考える。</p>

教材（例）

- 東日本大震災女性支援ネットワーク「災害支援事例集」
- 他、講師作成資料



企画時や実施時に工夫したこと

- 「男女共同参画の視点でのコミュニティづくり」を考えるに当たり、今日的課題である防災をテーマに防災分野や、新規層へアプローチする企画とした。
- 県や市町の防災対策課、市民活動センター等に積極的に広報を行った。
- 参加者同士が気軽に情報・意見交換ができ、また、ネットワークづくりにつなげられるよう、初回にワールドカフェ方式の交流会を行った。
- 講義だけでなく、参加者自身が主体的に地域の現状・課題を考え、気づきを得られるようにワークショップを多く行った。
- 男性や新規参加者が多かったことから、まず男女共同参画が個人の生き方に不可欠であることを講義の中できめ細かく伝えられるように、講義内容を講師と綿密に相談しながら進めた。
- 「防災と男女共同参画」を身近に感じてもらえるように、講師から具体的事例を多くお話いただいた。

参加者の声

- 地域の課題解決の糸口が見つかった。
- 課題のあらい出しからはじめて、地域の課題解決に向けて何をしたらよいか具体的に考えられたことがよかった。
- 居住地も違い世代も違う人達と意見交換ができて良かった。
- 今後、地域で多様な視点での防災講座を実施したい。
- 防災のチェックリストは今まで気付かないことも問題視できてよかった。

実施後の状況

講座終了後に実施した男女共同参画フォーラムにてワークショップ「防災と男女共同参画～見直そう！ 男女共同参画の視点で身近な防災マニュアル～」を実施し、地域リーダー養成講座受講生にも参加を促した。

また、そのフォーラムワークショップの中では、地域リーダー養成講座受講生から、講座での気付き（男女共同参画視点での地域づくりの重要性等）を報告いただいた。

今後の実施に向けた課題

講座終了後に、参加者自身の気付きや学習効果を地域での実践につなげられるような支援方法が課題である。

また、男女共同参画の視点で地域づくりに参画する新しい人材発掘・育成をどのように進めていくかという点も、今後の課題である。

本事業は、弊センターだけの取組でなく、県・市町行政機関をはじめ様々な主体との連携が不可欠であると考えている。連携先との関係性構築や新たな連携先の発掘も同時に検討していきたい。